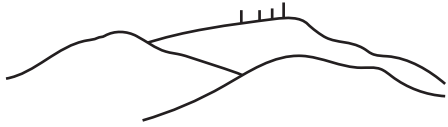


Youth Manna

2021/5/31 - 6/6



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/5/31(月)

詩篇 100 篇

「知れ。主こそ神。主が、私達を作られた。私達は主のもの、主の民、その牧場の羊である(3節)」
この詩を書いた詩人は、私達が神様という良い牧者に養われていることに満足し、安心し、その結果として感謝の賛美をささげている。

同じように、神様は、私達を日々養ってください！今日1日の終わりに、今日神様からどんな世話を受けたか、どのように神様が養ってくださったか、考えてみよう。そしてともに感謝しよう！

2021/6/1(火)

Ⅰ 歴代誌 24 章

祭司職の正当な継承者であるアロンの子らの組分け(1~)とレビ人の子孫(20~)が書かれている。神様にささげる礼拝のために、ふさわしく体制が整えられたんだ。しっかり準備することや最善をなすことの大切さもここから学ぶことだね。神様を礼拝することがダビデの時代にとっても重要視されていたことをこの箇所は伝えているよ！これは本当に素晴らしいことだね！

神様を礼拝する者としての自分を振り返ろう。礼拝する場所や君の心は整えられているかな？さらに神様に喜ばれる礼拝がささげられるために、自分ができることは何か考えよう！そして家々で、教会でなされている礼拝のために祈ろう！

2021/6/2(水)

Ⅰ 歴代誌 25 章

神への思いを表現するのに、人はことばだけではなく音楽を伴わせてきた。今日の私たちもまた、賛美を持って主にある信仰を表明している。この箇所に記載されている音楽隊は、レビ人によって構成されている。専門的に取り組む体制を整えることで、民全体における賛美を向上させようとしたのだろう。レビ人の任務は、彼らの存在を国全体の信仰の要としていくものである。レビ人が果たすさまざまな役割によって、民が神の前に整えられていくのである。そして彼らは、礼拝全体を指導する祭司が24組に編成されたように、24の組に分けられている。

私たちの思いを聞いてくださる神に感謝し、賛美を捧げよう！

2021/6/3(木)

Ⅰ 歴代誌 26:1-19

神殿の門を守る人として門衛という者たちが置かれ、主にコラ族とメラリ族の子孫が担った。門衛は、異教徒の攻撃や妨害から神殿を守る役割があり、ゆえに二つのことが要求された。一つは、いざという時には勇敢に行動できる勇士であること。二つ目には、思慮深い者であること。これはたくさんの人が神殿に来るため、だれを通しだれを阻むか、知恵が必要とされた。勇気と思慮深さが門衛に要求とされた。

現在では教会の受け付けのような奉仕だが、当時はそうとう大きく、たくさんの人が来るため、とてもたくさんの人がそこに置かれた。

神様は一人一人にさまざまな役割を与えてくださる！神様が自分に与えてくださっているものを知れるように祈ろう！

ムシキングの日 2021/6/4(金)

Ⅰ 歴代誌 26:20-32

▶神殿で使用される器具や、ささげられた物などを保管する宝物倉の管理はレビ人に委ねられた。レビ人が主に仕える者として、イスラエルの諸部族の地上的な思惑ではなく、主に聞き従うことを期待されたからだろう。

▶イエスが「宝」を例えに話された箇所がある(マタイ 6:19-21)。自分のために地上に宝を蓄えるのではなく、自分のために天に宝を蓄えなさいとイエスは命じた。地上にある宝は傷がついて盗まれるからである。実際、神殿にあった宝物はイスラエルの歴代の王様によって、他国への貢ぎ物として利用され無くなってしまった。

▶私たちが管理を任されている宝物とは何だろう？それを天に蓄えるためにはどうしたら良いだろう？

2021/6/5(土)

Ⅰ 歴代誌 27:1-24

ダビデは神殿のことについてやり終えた後、国の中の体制についても整えているね。神様のことを1番にしつつ、社会的に必要なことにも誠実に取り組んだんだ。

軍団の編成についてさだめたり、各部族の長を書き留めたりして、国の安全、平和を大事にしなが、神様が大事にしている12部族についてもしっかりと考えている王様だったんだね。

歴史の中でこのイスラエルの部族は分かれてしまし、国自体が一度滅んでしまう。だけど今この時代に再びイスラエルという国が建てられたことも私たちは実際に見ているよね。

この長くて広い視野をもっている神様の偉大さに心を向けよう！そして今ある社会に神様の国がくるように祈ろう！

2021/6/6(日)

Ⅰ 歴代誌 27:25-34

今日の聖書箇所では王の宝物倉の管理や、畑仕事をする者たちの管理、家畜の管理などをしてきた者の事が書かれています。最後の方には、ダビデの側近が紹介されていて、彼らはダビデの行動や判断を支えていた人たちでした。

ダビデは神様からの使命を果たすために、自分の身の回りのことを知恵を持って整えました。多くの人たちがダビデを支えた統治の仕方はイスラエルの国の理想的な姿として歴代誌に記載されています。

私たちはどうでしょうか？私たちの身の回りのこと(学校や勉強、家族、友達関係、生活のこと、時間の使い方、etc...)を見直してみよう！神様に喜ばれる生き方となるために、どこを整えるべきか、祈って神様に聞きましょう！